

【新試験制度移行後の出題実績】

<短答式試験>

年度・問題		論点	出題内容・出題項目
18	9	標準原価計算における仕損・減損	仕損終点発生，第2法，修正パーシャル・プランによる仕掛品勘定の記入
	10	パーシャル・プランの標準原価計算	仕損なし，直接材料費差異の分析，直接労務費差異の分析，変動予算による製造間接費差異の分析(公式法・四分法)
19	8	パーシャル・プランの標準原価計算	仕損なし，製造直接費差異総額と製造間接費差異総額の計算，直接材料費差異の分析，直接労務費差異の分析，変動予算による製造間接費差異の分析(公式法・三分法・標準時間基準)
20	9	原価差異の会計処理	受入価格差異の会計処理(簡便法)，比較的多額の原価差異の会計処理(一括調整法)
21	7	パーシャル・プランの標準原価計算	仕損なし，価格差異と賃率差異の分析結果に基づく直接材料費実際発生額と直接労務費作業時間差異の推定
	8	標準原価計算における仕損・減損	減損発生点不明，月初・月末なし，直接材料費差異の分析(価格差異，配合差異，賃率差異)
22 I	8	標準原価計算における仕損・減損	仕損終点発生，第2法，シングル・プランによる直接材料費勘定と仕掛品勘定の記入
22 II	—	—	—
23 I	9	パーシャル・プランの標準原価計算	仕損なし，修正パーシャル・プランによる仕掛品勘定の記入
23 II	—	—	—
24 I	10	標準原価計算における仕損・減損	仕損終点発生，第1法と第2法の比較，直接材料費差異の分析，直接労務費差異の分析，変動予算による製造間接費差異の分析(公式法・四分法)
24 II	—	—	—
25 I	—	—	—
25 II	9	標準原価計算における仕損・減損	仕損終点発生，月初・月末なし，第2法，直接材料費差異の分析(仕損差異)，直接労務費差異の分析(仕損差異)，変動予算による製造間接費差異の分析(公式法・四分法)
26 I	9	標準原価計算における仕損・減損	減損終点発生，第2法，パーシャル・プランによる仕掛品勘定の記入 <18の類題>
26 II	7	標準原価計算における仕損・減損	仕損終点発生，第2法，修正パーシャル・プランによる仕掛費勘定の記入 <18，26 Iの類題>
27 I	8	原価差異の会計処理	受入価格差異の会計処理(簡便法)，比較的多額の原価差異の会計処理(一括調整法) <20の類題>
27 II	7	標準原価計算における仕損・減損	減損発生点不明，月初・月末なし，直接材料費差異の分析(価格差異，配合差異，歩留差異) <21の類題>
28 I	7	標準原価計算における仕損・減損	仕損途中点発生，第2法，完成品標準原価と異常仕損費の計算
28 II	—	—	—
29 I	8	標準原価計算における仕損・減損	減損発生点不明，月初・月末なし，直接材料費差異の分析(配合差異，歩留差異) <21，27 IIの類題>
29 II	—	—	—

年度・問題		論点	出題内容・出題項目
30 I	8	標準原価計算における仕損・減損	仕損が発生しなかった場合の標準原価差異と仕損差異(仕損費)の計算
30 II	8	パーシャル・プランの標準原価計算	仕損なし、直接材料費差異の分析、直接労務費差異の分析、標準原価差異総額、直接費差異、製造間接費差異の計算

### <論文式試験>

年度・問題		問題の概要	出題内容・出題項目
18	1-2	原価差異の相互依存性をテーマとして、主として原料歩留・配合差異分析についての理解を問う問題	減損終点発生、月初・月末なし、直接材料費差異の分析(価格差異、配合差異、歩留差異)、変動予算による製造間接費差異の分析(公式法・三分法・実際時間基準)
	2-1	工程別全部標準原価計算から内部振替価格を用いた工程別損益計算、直接標準原価計算への移行を検討する問題	仕損なし、各工程の標準原価差異の分析
19	—	—	—
20	1-1	全部標準原価計算による損益計算書をもとに、CVP分析を行う問題	標準原価差異総額の計算
21	1-2	製造間接費について、ABCに基づく標準原価計算を行う問題	活動別の製造間接費標準の計算、固定予算による製造間接費差異の分析
22	—	—	—
23	1-2	原価差異の相互依存性をテーマとして、2か月間の標準原価差異の推移を分析する問題	仕損途中点発生、第2法、操業度差異を除く標準原価差異総額と異常仕損費の計算、直接労務費差異の分析(人員構成差異)
24	1-1	社内の2工程と外注加工工程からなる工程別標準原価計算	仕損終点発生(第1工程終点:最終完成品のみを負担させる方法)、仕損費を含まない原価標準の計算、修正パーシャル・プランによる会社全体の仕掛品勘定の記入
	1-2	全部標準原価計算の採用を前提として、年次の損益分岐点分析と月次の予算実績差異分析を行う問題	直接材料費差異と加工費差異の計算、直接材料費差異の分析結果に基づく発生原因の検討
25	—	—	—
26	1-1	減損量と減損費の把握をテーマとして、実際総合原価計算から標準総合原価計算に移行する問題	減損途中点発生、直接材料費差異の分析(価格差異、配合差異、歩留差異)、パーシャル・プランによる直接材料費-仕掛勘定の記入
27	1-2	投入単位(kg)と産出単位(個)が異なるタイプの標準原価計算において、減損のデータを明示することで、数量差異分析の本質的理解を問う問題	仕損終点発生、減損発生点不明、月初・月末なし、直接材料費差異の分析(価格差異、仕損差異、減損差異)、直接労務費差異の分析(賃率差異、労働歩留差異、労働能率差異)
28	1-2	仕損が発生しない単純な工程を前提として、標準原価差異分析の基本的な理解を問う問題、	仕損なし、直接材料費差異の分析(受入価格差異、消費数量差異)、直接労務費差異の分析(人員構成差異、労働能率差異)、変動予算による製造間接費差異の分析(公式法・四分法と二分法の比較)
29	1-2	製造間接費に限定して、オーソドックスな第2法による計算の理解を問う問題	仕損終点発生、第2法、パーシャル・プランによる仕掛品(製造間接費)勘定の記入、変動予算による製造間接費差異の分析(公式法・四分法)
30	1-2	オーソドックスな第2法による計算の理解を問う問題	減損終点発生、第2法、パーシャル・プランによる仕掛品勘定の記入

～出題実績の分析に基づく本章の学習指針～

短答式試験では、原則として各回1問の出題が継続していたが、全体の問題数の減少により、今後は2回に1回程度の出題になるものと見込まれる。頻出論点は(1)いわゆる第2法による計算(終点発生)、(2)原料歩留・配合差異分析、(3)原価差異の会計処理(一括調整法)であり、とりわけ(2)と(3)はほぼ同じ問題が繰り返し出題されている。出題率の低下が予想されるだけに、頻出論点を中心に、費用対効果を意識した学習を心掛けたい。

一方、論文式試験では、総合原価計算と並んで第1問の最頻出分野といえる。計算自体は短答式試験の延長であるが、原価差異の相互依存性などの理論とリンクした出題が行われる点に特徴がある。年によって難易度にバラつきはあるものの、一定水準を超える理解があれば確実に高得点を狙える分野だけに、差異分析を中心に本質的な理解を心掛けたい。

【本章の学習プラン】

作成者が推奨するのは、「標準」の◎◎の論点を潰した後、可能な限り△の論点まで広げるプラン

問題番号	論点	効率性重視		標準(推奨)		網羅性重視	
		短	論	短	論	短	論
問題4-1	パーシャル・プランの標準原価計算	◎	◎	◎	◎	◎	◎
問題4-2	シングル・プランの標準原価計算	△	△	○	○	◎	◎
問題4-3	製造間接費差異の分析	△	◎	○	◎	◎	◎
問題4-4	標準原価計算における仕損・減損(1)	◎	◎	◎	◎	◎	◎
問題4-5	標準原価計算における仕損・減損(2)	△	△	○	○	◎	◎
問題4-6	標準原価計算における仕損・減損(3)	×	○	△	◎	○	◎
問題4-7	標準原価計算における仕損・減損(4)	×	△	△	○	○	◎
問題4-8	標準原価計算における仕損・減損(5)	△	◎	○	◎	◎	◎
問題4-9	標準原価計算における仕損・減損(6)	◎	◎	◎	◎	◎	◎
問題4-10	標準原価計算における仕損・減損(7)	×	×	×	△	×	○
問題4-11	工程別標準原価計算(1)	×	△	×	○	×	◎
問題4-12	工程別標準原価計算(2)	×	△	×	○	×	◎
問題4-13	工程別標準原価計算(3)	×	△	×	○	×	◎
問題4-14	原価差異の会計処理(1)	◎	○	◎	○	◎	○
問題4-15	原価差異の会計処理(2)	×	△	△	○	○	◎

◎…必ずやる, ○…一応やる, △…余裕があればやる, ×…やらない

最も広く学習するプラン…「網羅性重視」の◎○△の論点を学習  
 最も狭く学習するプラン…「効率性重視」の◎◎の論点を学習